

「小中一貫教育」とは、どのようなものでしょう

1. なぜ、小・中をつなぐのか

(1) 子どもの身体的発達が早くなった

①身長の平均値の変化（昭和23年と平成25年の比較）

- ・身長の伸びの大きい時期が早まっている

②体重の平均値の変化（昭和23年と平成25年の比較）

- ・体重の伸びの大きい時期が早まっている



(2) 段差への対応が必要になった

○中1ギャップへの対応

- ・自尊感情の低下、学習上の悩み

○小・中一貫教育のイメージ

- ・リレーゾーンをつくる

小学6年生と中学1年生は、小中学校のリレーゾーン
できるだけスピードを緩めないバトンパスを

(3) 人のつながりが少なくなった

①世帯別構成割合

- ・三世代世帯の減少

②児童のいる世帯及び平均児童数

- ・児童のいない世帯の増加

学習指導要領
(国の)教育課程

学校の教育課程
「教育の計画」

2. 小中連携・一貫教育の定義

◇小中連携教育 キーワード「情報交換」「交流」「接続」

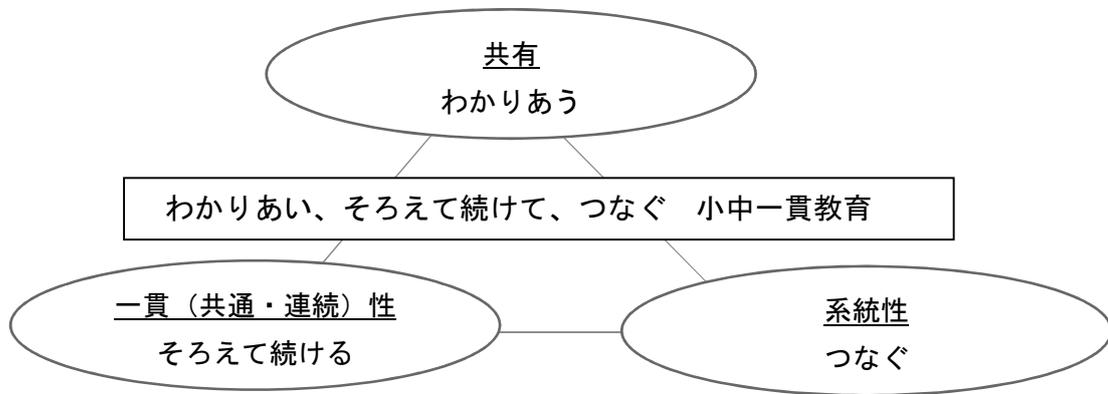
- ・小・中学校が情報交換したり、交流したりすることを通じ、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指す様々な教育

◇小中一貫教育 キーワード「共有」「一貫（共通・連続）」「系統」

- ・小中連携のうち、小・中学校が目指す子ども像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、それに基づき行う系統的な教育

小中学校が一体化した学校だけでなく、小中学校が併設している場合や、小中学校が分離している場合でも、小中一貫教育が進められています。（すでに全国の2割近い学校で）
それは、この「小中一貫教育の定義」に合っていれば、小中一貫教育と呼べるからです。

2. 小中一貫教育を、どのように進めるのか



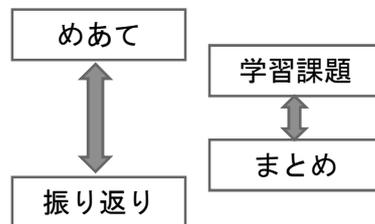
(1) 共有……わかりあう → 空間軸

- ①【目的】 目指す子ども像を共有……小・中学校、さらには保護者、地域を含めて
- ②【目標】 目指す学校像を共有……先進校の視察から実践へ
- ③【計画】 教育課程を共有……小中一貫の教育課程 ← 社会に開かれた教育課程



(2) 一貫性＝共通性+連続性……そろえて続ける → 時間軸

- ①授業スタイルをそろえて続ける
- ②学習ノートをそろえて続ける
- ③「話し合い」をそろえて続ける
- ④発表スタイルをそろえて続ける
- ⑤家庭学習をそろえて続ける
- ⑥学習方略・学習スキルをそろえて続ける
- ⑦学習規律・生活規律をそろえて続ける



(3) 系統性……つなぐ → 時間軸

- ①単元をつなぐ、教科等をつなぐ、学年をつなぐ
- ②社会とつなぐ、将来の自分とつなぐ⇒小中を通したキャリア教育
- ③人をつなぐ……小学校高学年における教科担任制⇒リレーゾーン
- ④人をつなぐ……相互乗り入れ指導⇒リレーゾーン

縦のつながりをつくる小中一貫教育……子どもは長い目で育てたい



それが真の「自立」につながる